霊妖
鬼魅
集神
全巻
体験版

目次

山野巻
伊吹山の主
天迦久神
信濃白鹿
大口真神
八咫烏
神鼠
ひだる神
たたりもっけ
がしゃ髑髏
わいら
野槌
小玉鼠
すねこすり
幽谷響
狐火
海川巻
穴海の悪神
化け鯨
綿津見神
磯撫で
影鰐
ゑびす神
ゑびす鮫
蟹の守り神
龍蛇様
乙姫
竜宮の使者
牛鬼
濡れ女
海坊主
あまびこ
あまびえ
神社姫
よなたま

虬
夜刀神
獺
河童
水虎

護符巻

神猿
稲羽の素兎
白鷺明神
長鳴鶏
福蛙
梟の神
十二支獣寿
獏
白澤
黄竜
青竜
白虎
朱雀
玄武
麒麟
麒麟図
件
角大師
予言の鳥
金霊

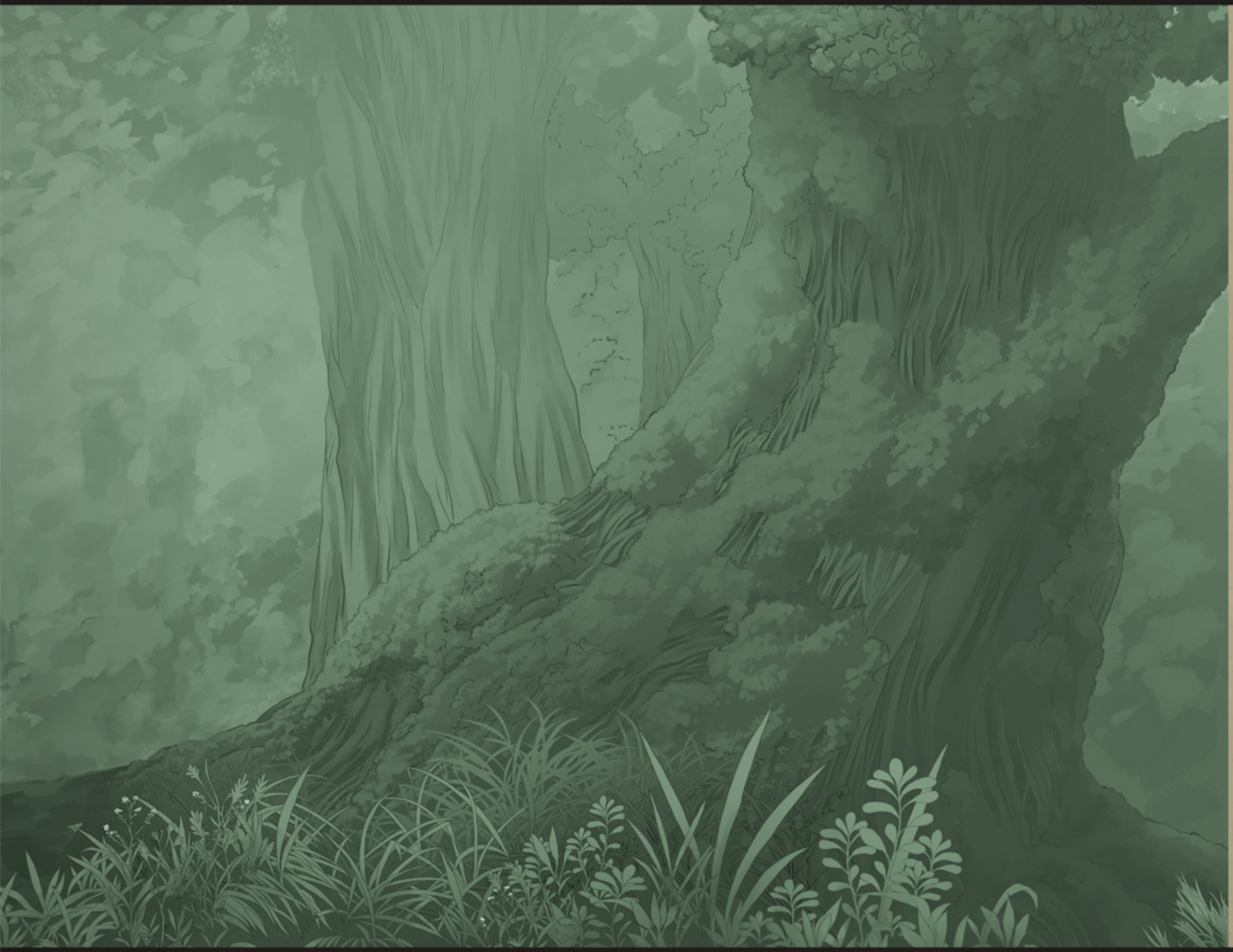
風雷巻

天狗
鼻高天狗
烏天狗
白狼・木葉天狗
魔風
頽馬
馬魔
大津虫
風狸

鎌鼬
一目連
風神
雷神
火雷大神
八雷神
雷獣
越後村松雷獣
高草山雷獣
雷奇獣
鵺
妖魅巻
貂
隠神刑部
火車
猫又
七尾猫
九尾狐
管狐
犬神
鉄鼠
陰摩羅鬼
獨目小僧
唐傘お化け
一反木綿
座敷童
ぬっぺふほふ
天井嘗
斑駒

妖魅神霊鬼集
全巻

画・原野雷曲



山野卷

伊服岐能山の神

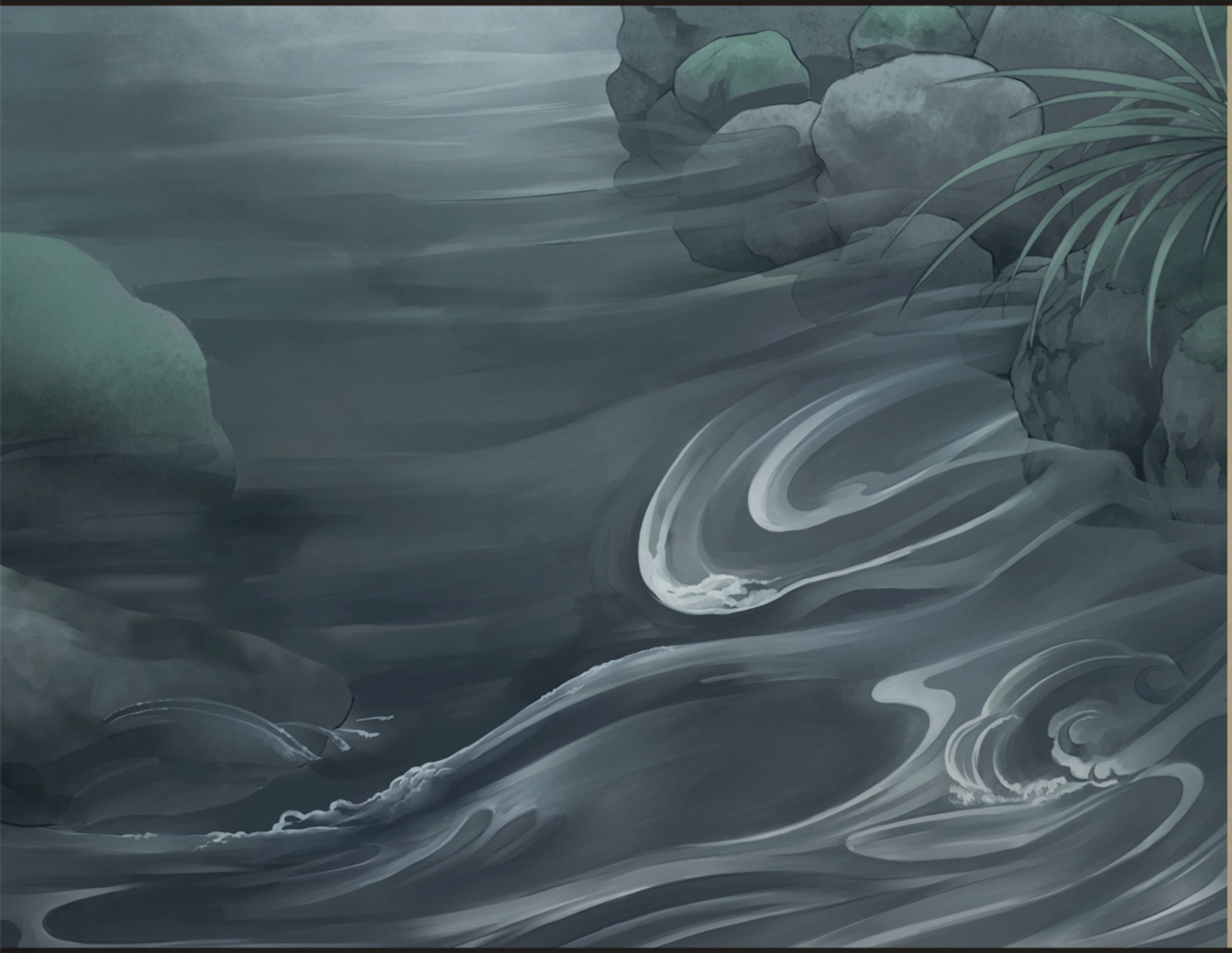
伊服岐能山の神

東征神話にて語られる山の神の化身。倭健命が東征からの帰路に着く中、尾張の美夜受比売に結婚の意志を伝えようとした所、伊服岐能山に荒ぶる神がいると聞いた。倭健命はこれを素手で倒してやろうと美夜受比売の元に草薙の剣を置いたまま山に向かったのだという。そこで倭健は牛程もある巨大な白い猪に会うが、この白猪こそが伊服岐能山の荒ぶる神の化身であった。しかし、倭健はそうと気付かず「伊服岐能山の神の使いか。帰りに殺してやろう」と言挙げし通り過ぎた。使いではなく神の化身であった為、言挙げ（正しければその通りに、言葉に間違いがあれば悪い結果が出る言霊）は失敗し更に神の怒りを買った結果、倭健命は山道で毒気のある大氷雨に見舞われ山を降りることになったという。

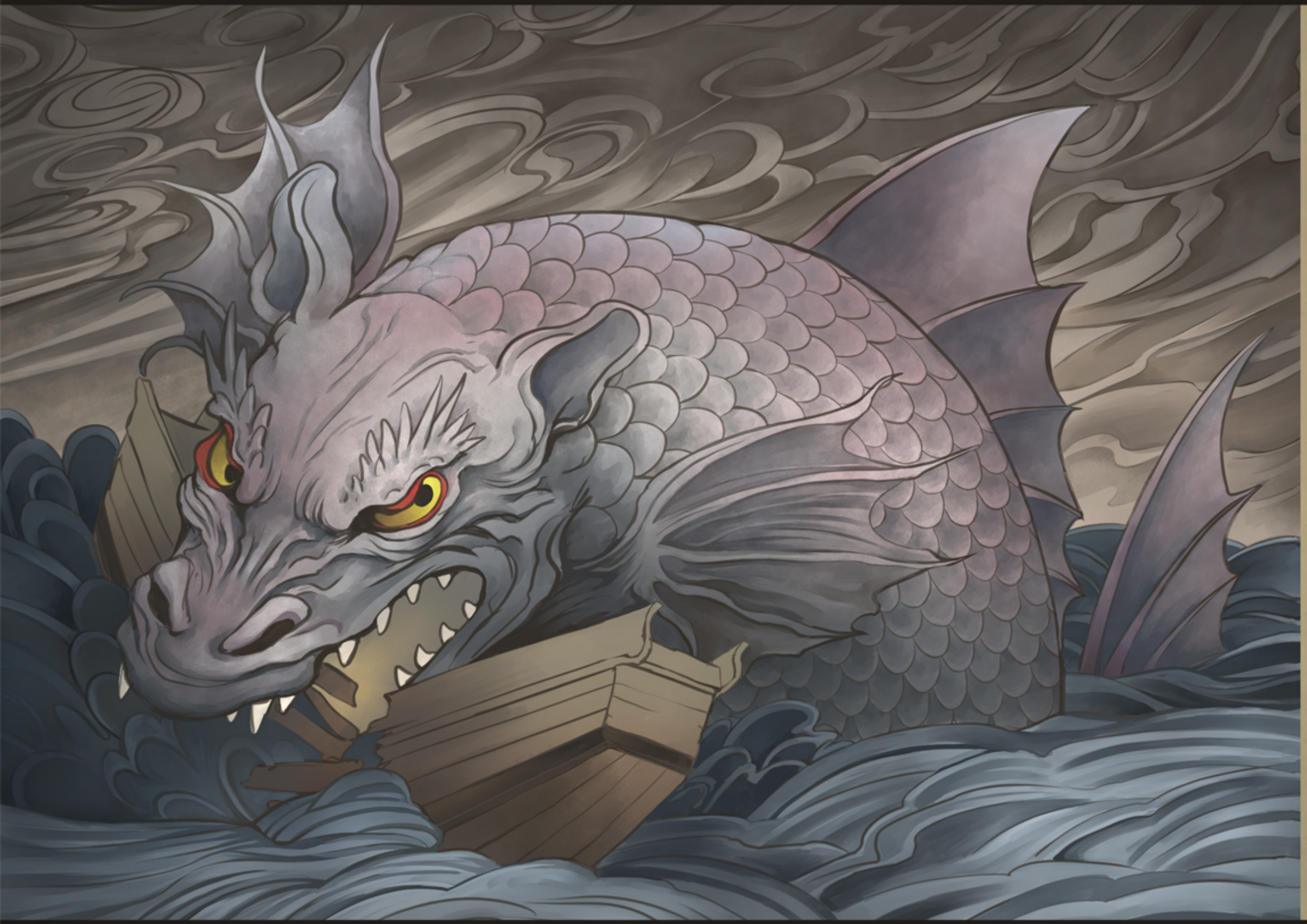
天迦久神

天迦久神（あめのかくのかみ）

古事記に出て来る鹿の神の名が天迦久神である。その名に入っている迦久は鹿を意味した。天迦久神が出て来るのは大国主の国譲りという有名な話で、国津神達の国を天照大神の子孫である天津神達へ譲る話である。天照大神は幾柱かの天津神を国津神の元へ遣わせ話をつけようとしたが、その試みは何度かの失敗を重ねた。天照大神は思兼の神と相談し、遂には伊都之尾羽張の神か、その子である健御雷之男の神を遣わそうとの話になるのだが、そこへ出て来るのが天迦久神である。尾羽張神は天安河の水を塞き止め逆流させて道を塞ぐ、他の神を寄せ付けない神であり、天迦久神でなければこの神の所へ辿り着けないと考えられた。そうして天迦久神が言伝を預かり尾羽張神の元へ向かい話を伝えると、その子である健御雷之男が国譲りへと出向く事となったのである。



海川卷

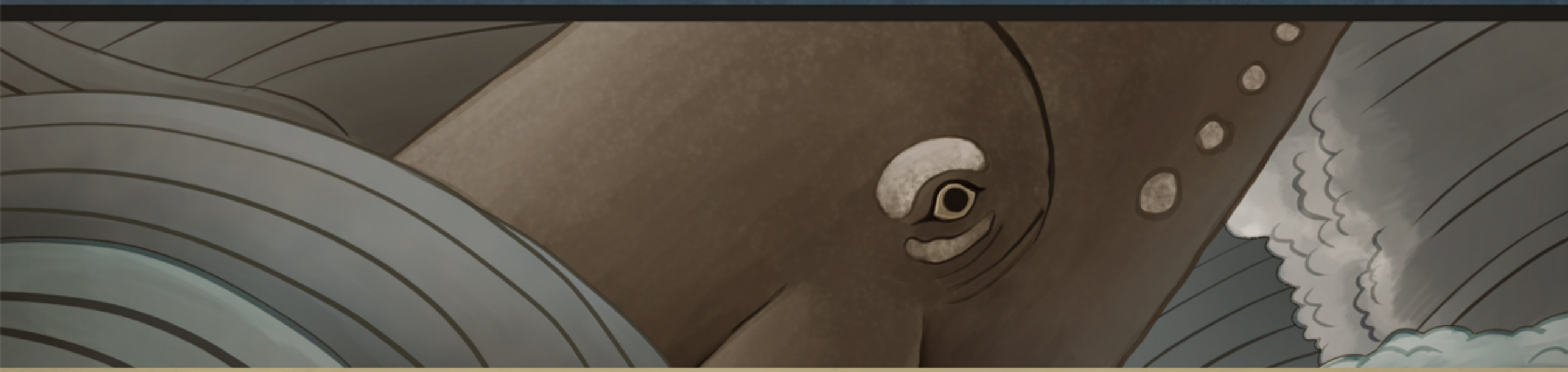


穴海の悪神

穴海の悪神

吉備の穴海には舟を呑み込むほど大きい魚が出たという。この大魚は悪樓とも呼ばれており航海を妨げる悪神として恐れられた。また一説には穴戸神とされることもある。日本神話としては日本武尊の悪魚退治の話で知られ、多数の部下を連れた日本武尊は吉備の穴海へ大魚退治に乗り出したそうだ。悪魚を前にして部下たちはその毒気にあたり、日本武尊も大魚に呑み込まれてしまう。日本武尊は絶体絶命の魚の中に居ながら、その腹を裂くことで悪魚を退治する事に成功したとされる。こうした大魚退治の話には類話が存在しており、伝承の残る土地には実際に悪神が埋められた塚や、その霊を鎮める為に大魚の骨を用いて建立された魚霊堂というお堂が存在した。退治された魚の体に因む地名も残存し、この穴海の大魚の神の権勢は中々のものがあるようだ。

巻物の巻



ゑびす神

全国各地の船乗り達が、鯨をゑびすと呼び神として祀ることがあった。読みは同じで蛭子や恵比寿、夷など漢字で書き、別名に久地良山を持っている。しかし、これらのゑびすは鯨のゑびす神だけを指したとは限らず他の海神を源流に持つ事があり名称から同源の神と判断するには注意が必要になる。鯨ゑびす自体の信仰も多様で、海岸に流れ着く鯨を稀なる恵みと感謝し鯨塚を造り祀りながら糧とする寄り神信仰や、鯨漁を行う船乗りへ富をもたらす有難い神として祀る者、海から豊漁招く漁業の守護神とするなど場所により信仰の形が異なった。鯨を祭る宮には、鳥居に鯨の骨を使う所もあって、昔に紀路の大湊太地という里で鯨恵比寿の宮を齋い三丈(約9m)にもなる胴骨を立てた記録がある。これに因み近年にも和歌山の太地の恵比寿神社で鯨の骨の鳥居が造られた。

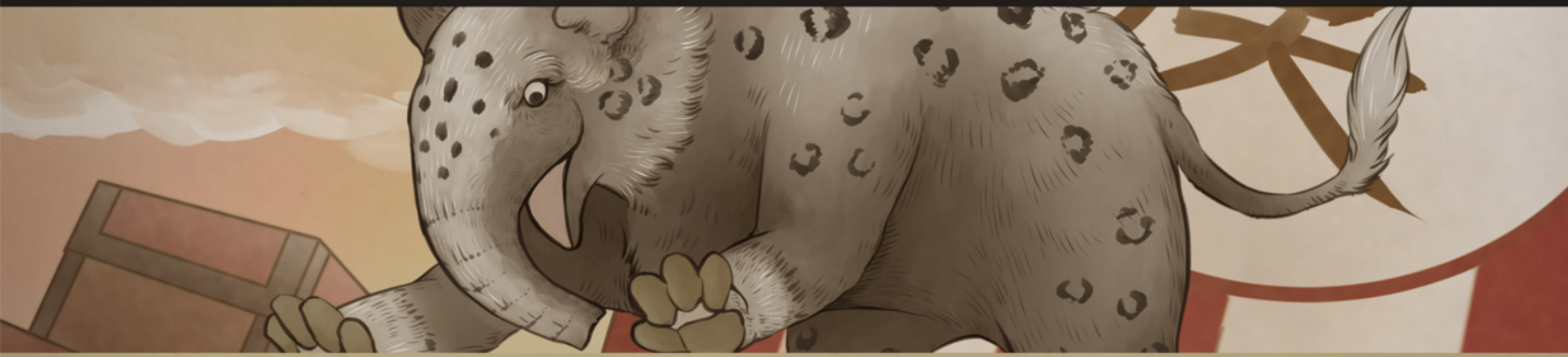
護符巻

神猿

神猿（まさる）

神に祀られる猿を神猿と書いて『まさる』と読む。日本に幅広く生息する猿が神格化されたもので特に日吉系の神社が有名となった。まさるの名が勝や魔去るの言葉に通じることから縁起が良いと考えられ魔除けや必勝の祈願がよくされている。また山の神である大山咋神（おおやまくいのかみ）の神使として有名であるが、神懸かった猿の話はこれだけではなく宮崎の方に鵜戸権現（うどごんげん）が猿に化身した話が残っているようだ。それというのも鵜戸権現に詣でた日向（ひゅうがの）守愛洲（かみあいす）移香（いこう）が夢に猿を見たのだという。それは武術の奥祕（おうひ）が授けられる神秘的なものであり鵜戸権現が猿へ姿を変じ現れたものと考えられた。こうして霊験を得た愛洲は日向（ひゅうが）の鵜戸にて武術の流派の一つである陰流（かげりゅう）を開きその祖になったという。武術への関りといい神格を持つ猿は勝負事で人を心強くさせてくれるのかもしれない。

獏



獏（ばく）

悪夢に悩まされる時、バク喰らえと三度唱えるとたちまちにその悪夢は消えてしまう。そんな話を御存知ではないだろうか。これは何時の頃からか広まり民間に浸透した古いおまじないである。バクとは現代で動物の獏を指すものの、一昔前になると獏は悪夢を食べる良い習性があり、鉄を食べる事の出来る強靭な獣とされた時代があった。その為、江戸の市井には獏枕なるこの獣の絵が描かれた枕が出回りもしたのだ。その枕の効能はずばり心地のいい眠りに誘う厭勝（えんしょう）（呪（まじな）いによる破邪の事）である。獏が及ぼす夢への影響は計り知れないものがあるようで年始に初夢で宝船の夢を見るが良いとされるが、その縁起を見る為に枕へ宝船の絵を吉夢を忍ばせることがあった。そしてその帆には獏の字が描かれたというのだ。安眠吉夢を願うなら獏が一番のようである。